



ひよこだより

都立葛飾ろう学校 乳幼児教育相談
令和4年11月1日 NO. 7

代弁と拡充模倣

●先輩ママ A君の育児記録より

食事の時、お代わりは何となく伝えてくれるのだけど、もう要らない時はなかなか教えてくれない。ふっと顔を背ける時はまだよくて、大体いつも、一旦口に入れてからべえ一つと吐き出して食べたくない意思表示をする。毎度「べえーはしないよ。もうおなかいっぱい。要らないね。次はおなかいっぱいって教えてね。」などと語りかけてはいるものの、ずっと改善されずにここまでできていた。が、今日は「おなかいっぱい」と手話で初めて教えてくれた。少し前から父と兄に協力してもらい、「もっと食べたい」「もうおなかいっぱいでは食べられない」「お父さんももう要らない」などと会話してみせたのも良かったかも知れない。

お腹がいっぱい、もう食べたくないという気持ちを、吐き出すという行動ではなく言葉で表現できるようにしてほしい…その時に必要なのが身近にいる大人の「代弁」の関わりです。A君のママは「おなかいっぱい。」「いらない。」という代弁をしたり、パパやお兄ちゃんがその気持ちを言葉でわかりやすくA君に表現して見せたりする対応をしてきました。こうした関わりがあって、A君が自分から「おなかいっぱい。」と表現できるようになりました。

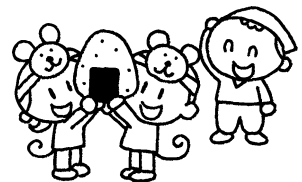
ゼンマイを巻くと、虫が球を転がしているように動くおもちゃ。「ゼンマイを巻くよ。このつまみを回すんだよ。くるくるくる」と巻いて動かしてみせると、「ゼンマイ」と言いながら何度も持ってきた。Aがつまんで回すにはつまみが小さすぎるようだった。「お母さん、巻いて、だね。」と言うと「巻いてー」と繰り返していた。



ゼンマイを巻かないと動かないおもちゃ。子供たちは黙って親御さんに差し出すことが多いのではないのでしょうか。この時に、まず「ゼンマイを巻く。」「つまみを回す。」「クルクル」というオノマトペも添えながらママがゼンマイを巻く行動を言語化している対応がいいですね。その上で、A君に表現できそうな言葉を選んで「お母さん、巻いて。」と代弁をしているところが上手な対応です。A君のこの時の「巻いてー。」は模倣でしたが、こうしたやり取りの中で自分から「巻いてー。」と表現できる力がついてきます。

保育園の帰り道で、車やバイクなどが並んで止まっている所があり、Aが「車、バイク、自転車」と順番に言うので、母は「白いバイクだね。大きい車だね。タイヤが太いね。」と形容しながら答えていた。最後の車は駐車スペースに頭から入っていて、Aはそれを指差し「車／お尻」と言って自分のお尻をぽんと叩いていた。「そうだね。車のお尻だね。こっちは車のお顔だ。(サイドミラーを指して)ここはお耳かな？」などと答えながら、車の後ろはお尻と表現するんだなあと思った。

目に入った乗り物を「車、バイク、自転車」と表現したA君の言葉を受けて、ママは「白いバイク」「大きい車」というように形容した表現で応答しています。これが『拡充模倣』の語りかけです。単語を文で表現したり、単語を形容して表現したりすることで、子供により豊かな表出言語の力をつけていくための語りかけの方法です。A君が「車／お尻」と表現したことに対しても、ママは「こっちは車のお顔だ。ここはお耳かな。」と、発展的な応答をしています。「お尻」に対して「顔」「耳」と車を擬人化して、語りかけを広げているのがいいですね。



●先輩ママ Bちゃんの育児記録より

昼ごはんの時、肉まんがあったので、Bちゃんに「肉まん食べたい？」と聞くと、頷いたので、「肉まんを温めよう。」と言って、温めた後、持っていったら、「マヨネーズ」と言ったBちゃん。「マヨネーズがほしい？」と聞くと「マヨネーズ ほしい」と。マヨネーズをもって来るね。と言い、もってきて、肉まんにマヨネーズをつけて美味しく食べていました。

ママは、Bちゃんが「マヨネーズ」と単語で手話表現してきた言葉を受けて、「マヨネーズがほしい？」と拡充模倣して応答しています。こうした応答も、こんな風に表現するといいいんだよ、という子供へのメッセージになります。その場ですぐに模倣ができたBちゃんですね。こうした関わり積み重ねで単語から二語文の獲得に繋がります。

●先輩ママの C君の育児記録より

パパの在宅ワークが始まったので、またボトルにコーヒーを入れて部屋までお届けをやってもらうことにした。今までは私がコーヒーをボトルに入れたものを持って行ってもらっていたが、今日はコーヒーをボトルに入れてもらうお手伝いをお願いした。「見て、見て。」「ママ、コーヒー作ったよ。」「パパにもどうぞしよう。」「と手話で伝えると「あった、あった。」と手話をして、張りきった様子だった。「コーヒー、あったね。」「あれ？コーヒーの入れ物がない。」「パパのボトルない。」「どこかな？」と探す。Cはボトルの置き場所を見て、「あった、あった。」と手話した。「パパの(「の」は指文字)ボトルあった、あった。」「パパの(指文字)だね。」と伝えた。

ママの語りかけがよく理解できたC君は「あった、あった。」とコーヒーを見つけます。それを受けて「コーヒー あったね。」と拡充模倣して応答しているママです。ボトルは手話のCL表現で表したのでしょう。ボトルを探し、見つけたC君は再度「あった、あった」、それを受けてママは「パパのボトル、あった、あった。」とまた拡充模倣で応答しました。「パパの」と、所有の助詞「の」もきちんと伝えているのがいいですね。単語表現の時期のC君がこうしたママの語りかけを受けて、文での表現や助詞の理解、表出に繋げていきました。拡充模倣の語りかけは大事ですね。



台所の天井近くに火災報知器がついている。Cはその警報器の黄色いランプが気になったようで、指さして「黄色」と手話してきた。私も「本当だね。黄色のランプついているね。」という。Cは「黄色」と手話の後に手を伸ばし「できない」と手話をした。「届かないね。無理だね。」「高い所にあるね。」と私が伝えると「パパ」「肩車」手を伸ばして「できない。」とCが返してきた。「パパに肩車してもらっても、届かない。」と伝えてきているのだと感じた。私も「パパの肩車でも届かないね。」「高い所だから届かないね。」とお話した。この頃自分の気持ちを伝えてくれることが少しずつ増えてきた。

C君が「黄色」と言ってきたら、ママは「黄色のランプがついているね。」と応答、これが拡充模倣ですね。そして、「黄色」「できない。」と表現したC君の気持ちをママは「届かない」という新しい表現で伝え、手を伸ばしている様子に「高い所にあるね。」と言語化して伝えていきます。「できない」だけでは日本語に繋がらないので、「届かない」という日本語に置き換えてC君に新しい表現を伝えているところがいいですね。それを受けてC君はさらに背の高いパパが肩車しても無理ということを想像しながら、「パパ」「肩車」「できない」と単語の羅列で表現しました。ママはそれを「パパの肩車でも届かないね。」「高い所だから届かないね。」と拡充模倣で応答しています。とても上手な対応です。



上記は全て1, 2歳児の育児記録です。親御さんたちが子供の発信を受けて、それを一つ一つ言葉に置き換えて伝える(代弁)、より豊かに表現できるよう広げて応答する(拡充模倣)関わりをしている例です。身近な親御さんのこうした関わりなしには豊かな言語表現には繋がりません。言語表現を伸ばすためにこの基本の関わりを改めて見直していただきたいと思います。子供たちが第三者にもわかるような言語表現ができるようになるまでにはまだまだ長い道のりがあります。親御さんは、子供の拙い単語だけの表現、指差しや声だけ、引っ張る、連れていくといった直接的な動作表現でも子供の伝えたいことが理解できてしまうことがあると思いますが、わかって終わりにせず、子供の言語表現を豊かに育むためには、こうした代弁や拡充模倣をしながらモデルをしっかり示す応答、語りかけが必要です。是非、子供と会話する時に心がけてみてくださいね。0, 1, 2歳児だけではなく、幼児にとってもまだまだ必要な関わりですので、個々の子供の発話がレベルアップしていくよう、語りかけを意識して関わってみてくださいね。

(文責 菅原)